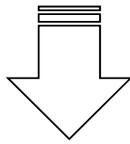
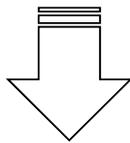


《 液状化判定フロー 》

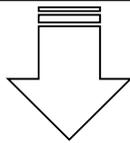
1. 液状化しやすい地形の抽出



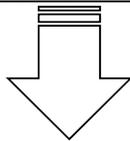
2. 古い地図や空中写真などにより、旧河道や池沼を探し出す



3. 地盤構成の確認
(ボーリング資料によるチェック)



4. 地下水位が高いかどうかの確認



判 定

「液状化3条件」

- ① 砂地盤であること
- ② N値が低くルーズであること
(締まりの程度が緩い)
- ③ 地下水位に満たされていること

液状化危険度 **ランク2**

液状化の可能性が低い

全体に液状化の可能性は低いと考えられるが、部分的に「液状化3条件」を満たす地点を含む可能性のある範囲

液状化危険度 **ランク4**

液状化の可能性が高い

「液状化3条件」を満たす、可能性の高い範囲

液状化危険度 **ランク1**

液状化の可能性が非常に低い

通常では液状化の可能性はほとんどないと考えられる範囲

液状化危険度 **ランク3**

液状化の可能性がある

非常に強い地震に見舞われたり、地震時に地下水位が一時的に上昇していた場合のように、条件次第では「液状化3条件」を満たすと考えられる範囲

液状化危険度 **ランク0**

液状化判定の対象外

山地や丘陵など、液状化するとは考えられない範囲

《 液状化しやすい地形 》

過去の地震の例からみた地形ごとの液状化しやすさは、次の表のとおりです。

液状化しやすい地形(過去の地震の例より)

液状化の可能性	地形ランク	地形(土地)区分
高い ↑	A	旧河道, 人工地形(盛土, 埋土, 干拓地, 平坦化地 等), 砂州・砂堆(砂丘間低地を含む), 高水敷
	B	谷底平野・氾濫平野, 海岸平野・三角州, 砂丘の縁辺部, 自然堤防
	C	台地・段丘, 山麓堆積地形, 砂丘(本体), 扇状地・緩扇状地, 低水敷・浜, 後背低地, 湿地・水草地
低い	D	山地・丘陵地

《 ボーリング資料によるチェックとは 》

①地盤の種類

・粘性土地盤や砂礫地盤は、液状化の可能性がほとんどありません。

・ただし、粘性土地盤の上に砂質土で盛土された場合は、液状化の可能性がります。

②砂地盤の場合

・浅い深度に砂層があるかどうか判断の目安になります。

・また、砂層のN値(地盤の締まり具合を示す指標)が高いか低いことも重要な要素となります。

《 地下水位の確認とは 》

ボーリング資料などから、地下水の位置を確認します。地下水が浅い深度にある場合は、液状化の危険度が高いと判定します。

《 液状化危険度の判定 》

判定は、その土地がどんな地形であるか、「液状化3条件」を満たしているかどうかによって、5段階に分けられます。(ランク0は判定の対象外なので、実際は4段階)